

学院時報



さあ、航ひこきなさい

聖ドミニコ学院理事長学院長



佐野 督郎

聖ドミニコ

学院幼稚園・北仙台幼稚園・小学校・高等学校・高等

学校の園児児童生徒の皆さん、卒業・卒業おめでとうございます。在籍された期間は一年から十五年と様々でありましようが、聖ドミニコで学んだことは皆さんの生涯の誇りとなることと思えます。それは聖ドミニコの生き方である他の幸せのために自分があること、他の幸せのためには自らが生きる力をつけなければならぬことを知らず知らずに学んだからであります。

ドミニコ会を設立したドミニコのエピソードに、全スペインが飢餓に瀕したときに学生であった彼は貴重な羊皮紙の本や持っていた全ての物を売り、貧しい人々に施しをしたということがあります。ドミニコがどのように決断できたのはそう決断することが出来るようにひたすら、自分を磨いたからだと考えます。他を愛するためには自分を磨くことが必要でありますが、その力は自

分です。分をつけることが肝要です。その足らざるを聖ドミニコ学院が手伝わせていただいたということ。ドミニコで学んだ力は皆さんを生涯支えます。さあ、航ひこきなさい、大洋に向かつて。

土の大切さ

学院長補佐 千葉 律之



今西祐行氏という児童文学作家が「一つの花を求めて」という演題で講演を行っている。

「花」には、悲惨な戦争と受け継がれていく家族の愛情の連鎖が描かれている。教科書にも載ったことのある有名な作品である。その後、今西氏が「一つの花を求めて」という演題で講演を行っている。

講演の中で、今西氏は自分の父親が毎年畑でおいしい瓜を作ってくれたという話をした。父親は「おいしい瓜を作るには、様々な肥料を施した土を作ることが大切なんだ。」と教えてくれたとのことだった。今西氏は「親になるとよくわかる。子どもは親の考え通りには育たないものだ。教育で大切なことは、瓜のことを忘れてまず土をつくれ、と父に

No.102
令和6年3月1日発行
聖ドミニコ学院
幼稚園・小学校
中学校・高等学校
〒980-0874
仙台市青葉区角五郎2-2-14
URL: <http://www.dominic.ac.jp>
TEL 022(222)6337
FAX 022(221)6203
北仙台幼稚園
〒981-0914
青葉区堤通雨宮町11-11
TEL 022(234)3615
FAX 022(342)0555

教わったことである。見守ること、作物の性質をよく知ること、作物が生えているところの土を絶えず耕し、空気の通りをよくすること、日あたりをよくすることが作物を作るより大切なことである。」と言っている。学院における土は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校である。土にあたる場所は、豊かな日あたりのいい栄養のある、健康で大きく育つ場所でないといけない。精緻な土こそが教育に大切であることをあらためて今西祐行氏の作品で学ばせていただいた。

新しい年へのエール

中学校高等学校校長 Sr 柚木 洋子



今年元日に能登半島地震が発生し、翌二日には、能登に救援に向かう航空機が羽田で民間機と接触する事故で始まってしまいました。

先日、小学校の学芸会で合唱団が「希空(まれぞら)」を披露してくださいました。能登を舞台にした朝ドラ「まれ」の主題歌だそうです。被災地の方々へ希望と勇気を届けたいとの思いのこもったすばらしいエールでした。

エールと言えば、近年、「かわい」という言葉が若者の口から多発され、一体この現象は何だろうとの声もたびたび耳にしました。某識者によれば、この語は日本語には少ない「仲間への誉め言葉」なのだそうです。確かに、スポーツにおいても「ナイス・キャッチ!」「ナイス・プレー!」また「ファイト!」と励まします。「頑張つて!」もあるけれど、場面によってはプレッシャーを与えるから使わないほうが良いと言われたりします。

新型コロナウイルスを経験したわたしたちは、言葉や関わりを極力控えなければならぬ場面が多かったけれど、もっと相手を褒め、励ます必要が示唆されているのかもしれない。

聖ドミニコが誕生するとき、母ホアナが見た夢、犬が松明をくわえて世界を駆け巡つたように、皆さんも、お互いにエールを贈って世界を明るく照らしていきましょう。



聖書のこぼれ

「主はこういわれる。知恵ある者は、その知恵を誇るな。力ある者は、その力を誇るな。富ある者は、その富を誇るな。むしろ、誇る者は、この事を誇るがよい。目覚めて私を知ることを。」
(エレミヤ書 9章 22-23a)

神はバビロン捕囚という苦難の中にあるイスラエルの民に預言者エレミヤを通して語られました。自らの願望を神の望みとしてすり替え、自分に都合の良い生き方を選んだ民へのメッセージです。苦しみの中にある時こそ神に嘆くことが大切です。嘆きによって神との関わりが生まれ、神を知るようになり、神によって造られた本来の「善」を求め、自分に変えられることで苦難を乗り越えることができます。苦難は誰でも避けたいものですが、人は経験を通して神を知ることができます。苦しい時、神に謙虚に自分の心を開いてください。神は必ず応えてくださいます。

中学校高等学校宗教科

Sr 竹内美由紀

幼稚園

運動会

十月二十一日(土)、朝から日差しが温かい中、運動会が行われました。体調不良の子が多かったため、三週間程遅らせての開催となりましたが、五月からコロナウイルス感染症が五類に移行されたこともあり、人数制限もなく久しぶりにたくさんの方にきていただきました。また、高校の織田有子先生、高校生ボランティア四人の方にもお手伝いしていただきました。コロナ禍で中止していた未就園児と小学生の競技も復活し、たくさん参加していただくことができました。子どもたちは、今まで練習してきたこと以上に最後まで一人ひとりの頑張る力をたくさん見せてくれました。閉会式では、先生方から一人ひとりカップやメダル、クッキーをいただき、子どもたちの顔が一気に笑顔になったのがとても印象的でした。聖ドミニコ学院創立七〇周年の記念すべき運動会にたくさん来ていただき、またたくさん声援を送ってください、どうもありがとうございました。



中高生さんとの交流

十二月十三日(水)は、ドミニコの中学生・高校生の方々が来てくださり、幼稚園のホールで一緒に遊びました。アンパンマンをテーマに、お面や手作りのおもちゃを準備していただきました。一人ひとり、アンパンのお面を頭につけて、スタンブカードを首からさげ、遊ぶ準備を万端にしてホールに行きました。ホールには、輪投げやボーリング、射的や的あてなどの遊びがたくさん準備されており、子どもたちは目を輝かせて、「全部遊びたい!」と張りきって遊んでいました。どのコーナーの遊びも工夫が凝らされており、大盛り上がりでした。イベントの最後には、中高生の方々から手作りの「プラバンキーホルダー」と『ピースのプレゼント』を貰い、子どもたちは大喜びでした。イベントが終わった後にクラスに戻ると、「また遊びたいね」と名残惜しそうに話していました。中高生の皆様、楽しい時間をどうもありがとうございました。



礼拝会・聖劇

十二月八日はクリスマス礼拝会第一部みことばの祭儀が神父様司式のもと行われ、子どもたちは家庭で取り組んできた善い行いを献金や心の花束として神様にお捧げしました。幼稚園での待降節の四週間、子どもたちは自分ができることを考えて実行し、友達のため、皆のため、他者に感謝する等、神様が下さった大きな愛を一人ひとり感じながら日々幸せを味わい、世界が平和になるように祈りました。神父様から自分がサンタさんになって喜びのプレゼントを届けたら、相手も幸せな気持ちになるということを伺い、明日への期待が膨らみました。

翌日は第二部の聖劇。今年はいくつかの方々が参列し、「満三歳児・年少児」、「年中児・年長児」と二回に分けて行いました。子どもたちは緊張しながらも、すべての方にイエス様の誕生の喜びを伝えようと、自分の役割をしっかりと理解して、友達と一緒に、また自分の言葉で神様の愛を精一杯表現しました。コーラスの方の歌も含め聖堂内は喜びでいっぱいになりました。



毎朝のお祈り

阿部 知佳

「イエス様、マリア様、おはようございます。今日も一日、明るく、強く、正しい心で過ごすことができますように、どうぞお守りください。」

息子が初めて幼稚園に登園した日の朝、マリア像の前で子どもたちが小さな手を合わせてお祈りをしていました。なんて愛らしい姿なんだろうと、自然と親の私も毎朝一緒に手を合わせるようになりました。

幼稚園の玄関で「おうちに帰る!」と泣いた日、はやくお友達に会いたいと駆け足で向かった日、お仕事がちょっと大変なときよほくれた日。どんな日でも息子は子のお祈りを丁寧に行っていました。心優しい先生方やお友達に囲まれて、このお祈りと共に息子はマイペースながらも明るくまっすぐな心を持った子に成長しました。毎朝のお祈りは、息子と私にとって心のお守りのような存在でした。明るく、強く、正しい心。息子には卒業してもこの気持ちを忘れず大切にしていってほしいと思います。マリア組から約四年間、本当にお世話になりました。先生方、皆様、ありがとうございました。



北仙台幼稚園

発表会

年少

年少児は「かえるのどじまん」の劇を行いました。カエルたちは歌うことが大好きでしたが、自分の歌が一番上手だといつも喧嘩ばかりしていました。そこで、一番上手なかえるを決めるために、のどじまん大会をすることにしたのです。絵本の読み聞かせの中で、カエルたちの話を笑いながら見ていた子供たち。役決めでは、それぞれになりたい役を自分で見つめた子供たち。役決めでは、それぞれになりたい役を自分で見つめた子供たち。日々の練習に励んでいました。最初はセリフや歌、立ち位置を覚えるのに戸惑いながらも、自由遊びの時に思わず口ずさむ姿や友達同士で役になりきって遊ぶ姿が見られるようになっていきました。劇の練習を通して友達の大切さに気づき、みんなで力を合わせて一つのことを行う経験ができました。

年少児にとって初めての発表会、大勢のお客様の前で発表するのは緊張したと思いますが、いつも以上に大きな声で役になりきって発表する姿に大きな成長を感じました。

年中

年中児は「こびとくつや」の劇を行いました。「こびとくつや」のお話をみんなで見た時から、自分ならどの役をやりたいかを考えて、練習も積極的に取り組んでいました。自分の出番だけではなく、控室にいる際にも大きな声で歌って全員で一つの劇を作り上げました。本番は緊張していましたが、練習で出来たところも忘れてしまわず姿が良かったです。しかし、忘れていた友達の様子を見てこっそり教えてあげられる姿も見られ、最後まで全員で頑張って取り組む様子が見られました。発表会後に「緊張したけど楽しかった!」「またやりたい」と達成感を味わうことができました。

劇の練習を通して、忘れてしまう時に、助けてくれる優しさに触れ「ありがとう」と友達に沢山伝える姿がありました。思いやりの気持ちを持ち相手の気持ちを考えることが、出来る優しい年中児になって欲しいと思います。

年長

年長児は「いちばんはじめのクリスマス」イエス様のご生誕の劇を行いました。一人ひとりクリスマスの意味を考え、どの役も大切な役であるという事を理解し、自分の役に責任を持って取り組むことができました。

憧れていた聖劇を今度は自分たちができることにやる気満々の子供たち。時には長く難しいセリフに苦戦する姿も見られましたが、一人で何度も練習したり、お友達と教えあったりと最後まで諦めずに一生懸命に取り組む姿が印象的でした。

当日はドキドキした様子の子供たちでしたが大勢の保護者の皆さまに見守られて今まで練習してきた成果を堂々と発表する姿は圧巻でした。保護者の方からのたくさん拍手とお褒めの言葉は子供たちの大きな自信に繋がったことと思います。

色々な行事にお友達と協力してたくさんの方に「やってみよう」と何んでもチャレンジしてきた年長さん。心も体も大きく成長しましたね!



クリスマス礼拝会

クリスマス礼拝会の四週間前から幼稚園では待降節が始まります。この間、子供たちはクリスマスにお生まれになるイエス様をどのようにして迎えるかを考え、クラスを飾り自分自身の心の準備をしてきました。身近で困っているお友達に手を貸してあげたり、世界で起きている戦争や環境問題について話し合ったり、それらのために自分たちはどのようなことができるかを考えながら取り組んできました。

十二月十五日、クリスマス会当日はこの待降節の間、お菓子などを我慢したり、お手伝いをして貯めた献金や善い行いを「心の花束」として家族の方にお捧げしました。

待降節や礼拝会を通し、自分たちが当たりだと思っていることがどれ程恵まれているかを知り、感謝する気持ちを一層育むことができたようでした。また「与えられる喜び」から「与える喜び」を知ることができた子供たちの表情は頼もしく、ひとまわり大きく成長したように感じました。

この優しい子供たちの心や献金によって世界中で悲しんでいる方々が少しでも心豊かで笑顔になりますように……。



感謝巡り

十一月十日に、私たちの安全を守るため働いている警察官の方に感謝の気持ちを伝えるため、警察署に年長さんは感謝巡りに行きました。

警察署に着くと、「しっかりと伝えられるかな」と緊張している姿、「どんな感じかな」と楽しみを隠し切れない姿がありました。署内では、警察署の方に元気よく挨拶する姿があり、さすが年長さんだなど感じました。

プレゼントを渡す際「いつも守ってくださりありがとうございます」と感謝の気持ちを伝え、警察署の方はとても喜んでくださいました。また、警察署の方からもプレゼントを頂き、子供たちはさらに笑顔になり嬉しそうでした。

その後、特別にバトカーを見学させて頂きました。子供たちは、色々な角度から見ると、しっかりと話を聞いていました。

今日の感謝巡りは、年長さんにとって特別な思い出になったと思います!



餅つき

十月十一日、青空が広がる秋晴れの中、今年も美味しいお米が実り、収穫できた事に感謝の気持ちを持って「餅つき」が行われました。全園児で園庭に集まる大きな白が二つ用意され、岩手県から来て下さった「夢見る老止(おとめ)の館」の餅つき隊の皆さんが待っていてくださいました。最初に赤い烏帽子を被った大黒様の大黒舞を見た後、餅をつく前のおこわを一口ずつ味わいました。いつも食べているご飯より甘い事に気付いたところで、いよいよ重い杵を持って餅つきの開始です。

年少児と年中児は先生と一緒に、年長児は一人でつきしました。みんなで力を合わせてついたお餅はふわふわにできあがりしました。あんこ、みたらし、納豆、のりにくるみ、ホールに集まって食べました。何度もおかわりの列に並んで、お腹いっぱい食べた子供たちは笑顔が溢れていました。



小学校

一・二年 校外学習

今年度の一・二年校外学習は、仙台うみの杜水族館へ行きました。二年生がグループに分かれて、それぞれ水族館を見て回りました。子供たちの感想を紹介します。



一年 小山 綾乃

はじめてのえんそくは、いろいろなさかなを見られてたのしかったです。とくに、小さいさかながハートのかたちをつくっていたのがすごかったです。いろいろかのシヨもすごかったです。いるかが上のボールまでとんでいました。ぺんぎんの中には、もふもふしたぺんぎんもいてかわいかったです。

一年 館股 寿明

えんそくで、うみのもりすいぞくかんに行きました。チームでいろいろなうみの生きものを見ました。「これはなに?」とはなしていたら、二年生が名前をたく

さんしつていてすごいとおもいました。ほくもいろいろなうみの生きものをしりたいです。

ぼくは、うみの生きものの中でワニがいちばんかっこいいとおもいました。どうしてかというとき、さかなをたべるときに大きな口をあけてきばを出して、バクツとたべるところがはく力があるからです。来年もみんなでまたきたいです。

二年 早津 咲希

九月十五日に水ぞくかんに行きました。天気は、くもりのち雨でした。まず一かいの大水そうに行きました。小さな魚がスイミーみたいに集まって、大きな魚の形をしていました。小さな魚がたくさん集まると、こんなに大きな形になるのかと、びっくりしました。

つぎに、足の長いカニを見に行きました。かべにへばりついていて、おもしろかったです。それから、マンボウを見に行きました。とても大きかったです。ペンギンは、立っているすがたがかわいかったです。

たくさんの場所に移動する時、一年生がはぐれてしまわないように、声をかけたり、手をつないだりしました。二年生として、お手本になって一年生をひっぱることができました。そのおかげで、まいに子にならずに、みんなで楽しく水ぞくかんを見て回れたのだと思います。三年生の花山合しゆくでも、がんばりたいです。

二年 伊藤 源人

遠足でうみの杜水ぞくかんへ行きました。ぼくたちレッドAは二年生三人、一年生三人のグループでした。

ぼくは、時計がかりになりました。はじめてうで時計をつけて学校に行ったので、どきどきしました。

水ぞくかんにつくと写真をとって、グループ毎に見学しました。見学をはじめると、すぐに時計がかりの仕事がありました。みんなから、「今、何時?」

と、何度も聞かれました。僕は、十二時の昼食の時間通りに水ぞくかんの中を見て回ることができるようになりました。そのけつか、十分前に集合場所につきました。ぼくは、時間を守ることができて、ほっとしました。

今回の水ぞくかんでは、一ばんいんしょうのこったのは、大水そうのスナメリが、サメにほおずりをしていたすがたです。ぼくは、今回の時計がかりをきっかけに、休みの日もうで時計をつけるようになりまし。これからも時間をいしきして行動したいと思います。

芸術鑑賞会

芸術鑑賞会では仙台市オペラ協会三人のオペラ歌手の方々が来てくださいました。本校合唱団とのコラボレーション合奏もあり、子供たちは芸術の秋を楽しむことができました。

三年 小林 若菜

私はオペラを初めて聴いて、おどろいたことが二つあります。

一つ目は音量です。歌ってくださったのは三人でしたが、三人とは思えないほどの声でびっくりしました。聖堂のステージで女性の方が歌っていると、とつぜん男性の方が後ろから大きな声で歌いながら登場し、聖堂いっぱいメロディがひびきわたりました。私はその大きくてきれいな歌声に、心ぞうがどきどきしました。

二つ目は、感情を歌で表現することです。私は最初どのようにして表現しているのか分からなかったけれど、明るい歌は楽しく元気よく歌っていて、しずかな曲はゆつたりとしていました。そして、心をこめて歌っているから、聴いている私にも感情が伝わってくるのだと思いました。

三年 坪井 陽葵

オペラ協会の方々がドミニコにきて美しい歌声を聴かせてくださいました。最初の曲は、ソプラノの音がとてもきれいで僕が普段歌うのとはまた違った歌声でした。どのようにすればあのような声が出せるか不思議で、すごいと思いました。

そして、合唱団としてオペラ協会の人たちと一緒に歌った曲がありました。それは「世界に一つだけの花」です。一緒に歌っている時も、オペラ歌手の方々の歌声がすごく聞こえてきました。

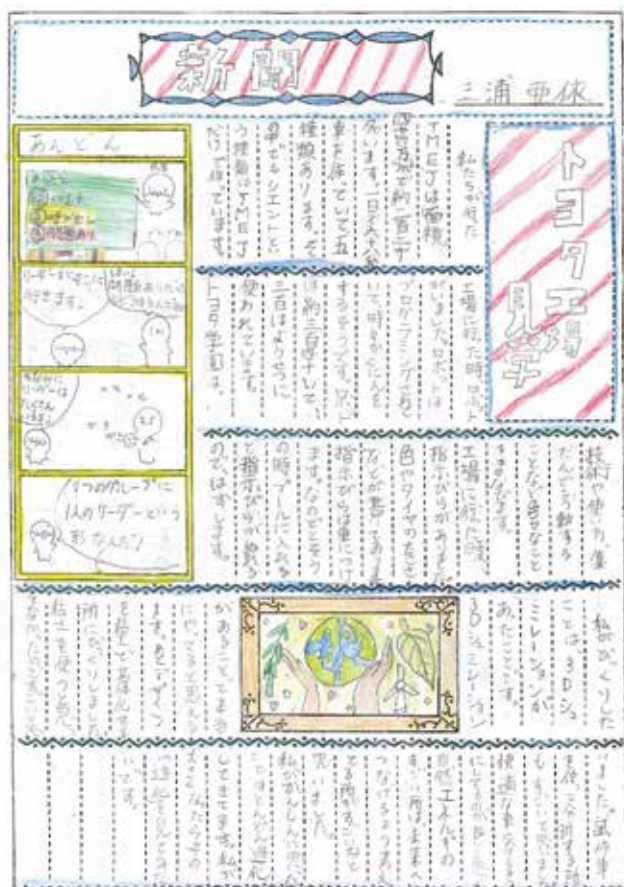
お忙しい中、ドミニコ小に来てくださったオペラ協会の方々に本当に感謝したいです。



トヨタ工場見学

五年生は一月十八日に大衡村のトヨタ自動車工場へ社会科見学に行きました。組み立て工場や溶接工場を見学し、教科書では見えない様々な学びを得ることができました。

学習のまとめとして、オリジナル新聞づくりをしました。子供たちの新聞を掲載しますのでどうぞご覧ください。



五年 三浦 亜依



五年 櫻井 楽翔

日本合唱コンクール全国大会 四大会連続金賞受賞

自分達の積み重ねた努力を存分に発揮し、最高のハーモニーを響かせ四大会連続で金賞を受賞できたことをご報告致します。学院、地域の方々の多大なる応援、ご協力に心より感謝申し上げます。

団長 六年 佐藤 慶人

本番前の練習場所として訪れた福岡女子商業高等学校では、初対面の僕達を優しく迎え入れて下さり、とても嬉しかったです。あたたかい場所でした。リラックスしながら練習できたお陰で、本番では練習の成果を悔いなく出し切れました。歌詞の世界を想像し、それぞれの場面にある声の明暗をつくることを意識したので、曲を通して伝えたいメッセージを届けられたと思います。全国大会の経験を通して、合唱はたくさんさんの学びをさせてくれる、自分にとって欠かせない存在であることを強く感じました。卒業まで、団長としてより一層責任感を持ち、恐れずに挑戦する姿を見せて、仲間とともに成長していきます。

演奏会のお知らせ

★県民ロビーコンサート(県庁一階)

三月二十一日(木)

午後十二時十五分～四十五分まで

★第十回卒業演奏会(学院聖堂)

三月三十一日(日)

午後十四時開演予定

中 学 校

今年卒業していく皆さんへ

中学校主任 成毛 祥代



三年生の皆さん、卒業おめでとうございませう。みんな、この三年間、よく頑張りましたね。

今だからいいますが、中一のこのクラスを最初に見た時、私は頭を抱えたものでした。元気はいいけど、基本お勉強は嫌い。お返事もいいけど、直ぐに忘れてしまう。叱られてもめげないので、同じ事を繰り返してしまふ。等々。この人達がいつか学習してくれる日が来るのかしらーと、溜息をついたものでした。

ただ、初めから今も変わらずずっと良いところもありました。それは「情に厚い」事です。困っている人、悲しんでいる人に寄り添い、手を貸し、他人の気持ちの解る人達でした。それが判ったから私も、このクラスの事が好きになれたのでした。

三年経って、本当にみんな大きく成長しましたね。これからも未だ未だ色々な事があると思うけど、みんなのこれまでの知識と経験で乗り越えて行ってください。それぞれの将来に幸あれ！



御卒業おめでとうございませう

三年A組担任 大坂 康寛



樹木の生長は、いつも私たちを励ましてくれます。春に芽吹き、花の季節には美しく咲き誇り、冬

の寒さに耐えた後、再び若葉に包まれる姿には命の力強さを感じます。一日の変化は小さなものですが、頼りなかつた若木が日々を乗り越え、大きな根を張り、たくましい枝を広げる成長ぶりは、それを見守る私たちに年月が流れたことを教えてくれます。

三年生の皆さん、卒業おめでとうございませう。土の中で育った根は、外から見ることはできません。これから成長する大きな幹を支える根。それはとても地味で人目に付かない存在です。しかし、しっかりとした根があるからこそ木は大きく育ち、嵐でも吹き飛ばされぬ強い木になります。

ドミニコ学院中学校での三年間で皆さんが成長させた心と体は、これからの皆さんを支える大切な根になるはずですよ。楽しかった思い出は未来を強く支えてくれます。これからの高校生活が幸せに満ちたものになりますように、心からお祈りしています。感謝と奉仕の気持ちを忘れずに頑張ってください。

三年間を振り返って



三年A組 南條 圭佑

ドミニコ学院は人間関係や学校生活を充実できる学校だと感じた三年間でした。

活躍するドミニコ生

【聖ドミニコ学院中学校】

- 第六十九回仙台市児童生徒理科作品展 部会長賞 3年 森井 淳斗
- 第四十二回宮城県スポーツ少年団 バドミントン交流大会 2年 西村 真愛 第3位
- 第七回宮城県中学校新人剣道選抜大会 女子団体 第1位 剣道部 1年女子個人 第3位 佐々木りく 2年女子個人 第1位 橋本 倅 2年男子個人 第1位 蟹澤 結介 第5位 門間 海杜
- 宮城県中学校体育連盟 優秀選手賞・功績賞 3年 稲富 怜花 3年 稲富 悠花 3年 及川 文伽 3年 佐々木仁菜 3年 澤村ここみ 3年 橋本 望夢
- 第十六回河北小中学生書道展 入選 2年 伊藤 紗瑛
- 令和五年度 心の輪を広げる体験作文コンクール 最優秀賞 2年 伊藤 紗瑛 令和五年度 障害者週間ポスターコンクール 最優秀賞 2年 佐藤 桃香
- 栃の葉カップ剣道大会 女子団体 Aリーグ 第4位 剣道部
- 令和五年度校内読書感想文コンクール 最優秀賞 1年 菅野ひばり 優秀賞 1年 武山虎太郎 佳作 2年 菊地 奈緒 3年 森井 淳斗
- 第九十一回全国書画展覧会 書の一部 金賞 3年 清野 喜花
- 第三十七回宮城県中学校剣道選手権大会 中学男子・女子団体 優勝 剣道部
- 第三十七回宮城県中学校剣道選手権大会



行事では、少人数だからこそ一人ひとりが積極的に参加でき、各々が得意分野で力を発揮できました。特に三年生の文化祭では一、二年の時とは大きく異なり、多くのお客さんを迎えることができ、活気づいた活動でした。

また、満足いく活動ができたのも友達がいってくれたおかげだと感じました。喧嘩やトラブルもありましたが、支えてくれる友人がいってくれたからこそ学校生活を送ることができ、今の自分の成長に繋がっているのだと思います。

個人的にはチャリティーコンサートやオープンスクールでヴァイオリンの演奏をさせていただきました。コンクールとは違った緊張感や達成感があり、さらに自信をつけることができ、新たな目標もできました。

今までのたくさんの思い出を大切にしたい、高校では将来に必要なスキルを身につけるために、様々なことに挑戦していきたいと思ひます。

修学旅行だより



修学旅行の思い出



三年A組 清野 喜花

今回の修学旅行では、長崎県を訪れ、一日目には大浦天主堂やイルミネーション、二日目には原爆資料館や自主研修、三日目には、ハウステンボスに行きました。

その中でも、被爆体験講話ガイドの門隆さんにいただいたお話が印象に残りました。今は、戦争を体験された方が少ない中、直接お話を聞くことができ、とても貴重な体験をすることが出来ました。特に体罰が当たり前にあったことや、自分たちと同じくらいの年齢の人たちが当たり前のように戦争に出征していたというお話を聞いて、今との価値観の違いや、当時の生活がどれだけ過酷で、人々を苦しめていたのかを改めて考えさせられました。また、お腹がいっぱいになるまでご飯を食べられることや、自分の将来を自分で決められることなど、当時と今の価値観が異なり、今が幸せなことだという事を学んでいることに感謝しながら日々を過ごしていきたいと思いました。

令和五年 「心の輪を広げる体験作文コンクール」最優秀賞 祖母から教えてもらったこと

二年A組 伊藤 紗瑛

みなさんの周りに障害のある方はいますか。私は目の見えない祖母がいます。祖母は私が生まれる前から目が見えなくて、原因は糖尿病による合併症でした。病気になる前は朝から夕方まで元気に働いていましたが、ある時から視力が低下し、仕事に支障が出るようになりました。三度の大きな手術を乗り越えましたが、元のような視力に回復することはできませんでした。現在、障害者の認定を受け、様々な支援を受けながら生活しています。

ここまでの話を聞くと、大変そうだと思う人がほとんどでしょう。しかし、そうではありません。長年住んでいる家の感覚から、料理や洗濯、掃除を祖父の協力を得ながら毎日こなしています。また、祖母は頼りがいがある、とても強い人なのです。その理由の一つとして、祖母や母からよく話を聞くのが、東日本大震災の話です。私は当時一歳で、双子で生まれたため弟もいます。弟は喘息を患っていて、よく母と病院に行っていたため、私は祖母の家に預けられることが多かったのです。祖父は当時、仕事をしていたので、日中は祖母と二人でいることが多かったようです。そんな中、あの忘れられない出来事が起きてしまったのです。

震災当日、私は昼寝をしていたのですが、恐ろしいことに私の目の前には大きな筆筒があったのです。祖母はその時、このままでは私の体にそれが倒れてきてしまうと思い、少しの視力を頼りに、私の上に覆いかぶさって守ってくれたのです。幸いなことに筆筒が倒れることはなく、私達は助かることができました。この話を聞いた時に、祖母はとても勇敢で強い人なのだと思います。

その震災後、私の自宅のライフラインが復旧しなかったため、しばらくの間、私たち家族は祖母の家で生活していたそうです。祖母は、普段の見えない不便さに加えて、震災後の更なる大変さが加わった中でも、私達家族の分の食事を作ってくれたり、まだ一歳の双子の私と弟の面倒をみてくれたそうです。絵本が見えないので空想の話聞かせてくれたり、昔の歌を歌ってくれたり、母に代わってお風呂に入れてくれたり、祖母は驚いたと同時にとても嬉しい気持ちになりました。それから今現在も、私が悩んでいた時も相談に乗ってくれたり、助けなくてはならない立場なのに、逆に助けてもらってしまうばかりです。

このことからみなさんに知ってもらいたいのは、「障害がある人は決して弱くはない」ということです。むしろ、辛い治療や困難を経験してきているからこそ、私達より強い部分があるのではないかと思います。その「強い部分」を活かしていくために、私たちは誰もが活躍できる社会をつくっていかなくてはならないと思います。

また、視覚障害について調べていくと、社会はICTの発達によってGPS機能を利用すれば、行きたい場所まで音声で誘導してくれたり、町の環境を整備されて視覚障害者の方々にとって生活しやすい社会になりつつあることが分かりました。また、障害のためには出来なかったことも、新しい機器や道具の登場により、障害があっても挑戦できることが以前より格段に増えてきているのです。

しかし、生活の不安が全て解消されたわけではありません。だからこそ、困っている人を見かけたら積極的に助けるといったことが、障害の有無にかかわらず、誰もが暮らしやすい社会になるための一つの方法ではないでしょうか。それをすぐに行動に移すのはとても難しいので、私は小さなことの積み重ねから始めていきたいです。

○ 中学男子
最優秀選手
第三十七回宮城県中学校剣道選手権大会
中学女子
優秀選手
令和五年度仙台市小・中学校図工・美術
合同展

○ 宮城県スポーツ功績賞 剣道
3年 橋本 望夢

○ 宮城県中学校体育連盟
功績賞 3年 女子剣道部
1年 菅野ひばり

○ 聖下三三三学院高等学校
第四十回JPTAピアノ・オーディション
地区大会
優秀賞(全国大会出場)

○ 令和五年度校内読書感想文コンクール
最優秀賞
優秀賞

○ 佳作
令和五年度校内読書感想文コンクール
最優秀賞
優秀賞

○ 佳作
令和五年度校内読書感想文コンクール
最優秀賞
優秀賞

○ 第四回ビクトリーカップ高等学校女子バレーボール交流大会
準優勝 バレーボール部

○ スパイク賞
レシーブ賞
第三十五回宮城県合唱アンサンブルコンテスト 高等学校部門
銅賞 音楽部

○ 第十二回 創作絵本・デジタル絵本・紙芝居コンテスト
最優秀賞
努力賞
佳作

○ 第七十六回 宮城県高等学校美術展
奨励賞

2年 蟹澤 結介
1年 小笠原杏莉
1年 菅野ひばり
3年 橋本 望夢
3年 稲富 怜花
1年 竹野はるい
1年 竹野はるい
1年 佐々井ゆか
2年 黒田 采音
1年 鳥守 瑞季
2年 徳田 鈴子

2年 佐藤 陽
2年 平山 真衣
2年 徳田 鈴子
2年 晴佐久愛華
2年 佐藤 令風
2年 若生 流音

高等学校

マスクなし？

三年生主任 及川 俊浩

卒業に向けてアルバムの確認作業をしている時です。三年生のなつてからはクラス毎の個人写真や行事の時にはマスクをはずしての写真撮影を心掛けてきましたが、一、二年次の行事等の写真はほとんどがマスク姿。マスクありでも良い表情と感じられるものがたくさんありましたが、やはりマスクなしでもっと良い表情になるのではないかと考えていました。

予測できないことが多々起こる時代です。まさかマスクを着用しての生活が続くとは思いませんでした。この後どのようなことがおこるか、わからない状況の中で生活が続くことも考えられます。困難な状況に立たされたときに、どのように立ち向かえば良いのかを考えると、行動することが大切になると思います。その時には高校生活で教わり、身につけた知識や経験が活かされると思います。各教科や部活動、委員会活動などももちろん、本校で大切にきてきている神の教え、ドミニコの言動をふり返る機会を持つてほしいと思います。

卒業式でみなさんの素敵な表情に出会えることを楽しみにしております。



三年一組の皆さんへ

三年一組担任 及川 俊浩

二〇二三年四月七日、三年生の始まりの日。まさか担任が及川になると思ってもよくなかったことでしょうか。正直言えませんが、私もそうです。長いドミニコでの教員生活の中で特別進学コースは授業をしに行くコース、学年主任としてはその仕事として関わるコース、と思っていました。ということもあり、四月七日はどのような顔して教室に行けば良いのかな、と少々悩みながらも四階まで上がったこと、と今でもおぼえています。

特別進学コースということで、ある意味進学は義務づけられているクラスです。三年生になれば自分の進路を必要以上に真剣に向き合わなければならぬ状況が続くも、全員が無事目標への着陸をはたしてほしいと常に願っていました。

自立の時



三年二組担任 伊藤 崇

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんとは日々の授業とともに、今年度は三年二組の担任として関わらせていただきました。

三年二組の皆さんについては、賢明さを持っている人達である、という印象を持っています。そしてその賢明さを、皆さんは高校生活の中で随所に発揮していました。たとえば、私の心に強く残っているのは、ドミニコ祭の出店での活動です。クラスで韓国喫茶を行うと決めてから、教室の飾りつけや買い出し等の事前準備、当日の調理・販売、そして最後の片付けにいたるまで、計画的かつスムーズに進めつつ、何より一生懸命楽しんでいました。最終的には準備費用の四倍の利益を上げ、圧倒的な販売結果を残したので流石です。そうした賢明さは、皆さん一人一人の進路達成への努力にも見えてくれました。

皆さんがドミニコ学院に入学したこと、新しい友人ができたこと、様々な行事で頑張ったこと、一生懸命勉強したこと、三年間部活動を通じて活躍したこと、毎朝早く電車やバスに乗って通学し続けたこと、そして進路目標の実現に向かって一生懸命考えながら努力したことなど、これまでの三年間の経験には全て意味があったと、私は思います。そうした経験を通して、皆さんは着実に成長しました。

さあ、いよいよ「自立の時」です。卒業後の皆さんの人生に、たくさんのお恵みがあることを祈っています。そして、三年生という大切な集大成の時期に、皆さんの成長を目にすることができ、このことを心より感謝しています。

門出を迎える皆さんへ



三年三組担任 茗荷谷 なつみ

ご卒業おめでとうございます。二〇二一年四月にドミニコ学院に赴任し、一年三組の担任を務めることが決まったとき、これまでに感じたことのない緊張感と責任感が、自分の中に芽生えたことを昨日のこのように思い出します。お互いにドミニコ学院を「知る」ところから始まり、「四コース制最後の卒業生」として過ごした高校三年間はいいかだったでしょう。前代未聞のコロナ禍に本来の青春を奪われ、心折れそうになったこともあったかと思いますが、皆さんは小さな可能性も自分たちの手で広げ、その一瞬を最大限に楽しむことを目指し、前を向いて進んできました。その姿に何度心打たれたことでしょうか。

そして、これからも



三年四組担任 佐藤 美穂

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。コースごとの特色ある授業や様々な行事など、学校生活全体を通して、充実した三年間であったならば嬉しいです。

三年四組の皆さんは、入学当初の緊張した面持ちが今となっては懐かしいくらい、のびのびとした高校生活でした。皆さんが、遠慮と配慮の絶妙な距離感をはかりながら、ゆっくりと打ち解けていく様子はとても微笑ましくもありました。それぞれの些細な行動の積み重ねが四組を形成していきました。

入学当初から進路目標が明確な人、たくさん悩んで決めた人、これから先まだまだ悩みは尽きませんが、それぞれに次に進む道へと向かっていきます。すべきことやできることを考え、行動してください。ここぞというときに頑張れる皆さんをこれからも応援しています。

ドミニコ学院での人生の学び



三年二組 高山 結愛

希望を胸に抱き、ドミニコ学院に入学した日を昨日のこのように思い返せます。それから三年、いよいよ卒業を迎える運びとなりました。私の高校生活は苦しい思い出が多いですが、それ以上に楽しかった思い出が沢山あります。ドミニコ学院での経験で私は成長することが出来ました。ここまで私がやってこれたのは、私を支えてくださった方々のおかげです。

私はドミニコ学院で、「日常」の大切さ、「努力」と周囲への「感謝」を忘れないことを学びました。私は高校一年、二年の両年で怪しと病気に悩まされ、辛い時期を過ごしました。しかし、友人、先生方、家族が親身になってくださり、励ましてくれたおかげで今があります。そして、聖書に「求めなさい。そうすれば、与えられる」とあるように、一生懸命努力することで、私は目標を達成することができました。

周りの方が支えてくださることも、努力をできる環境も、健康も、それらの「日常」は当たり前のことではありません。「日常」は私の周りの方々と与えられていたものでした。全ての物事、私に関わってくださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。これからもドミニコ学院で学んだことを人生に生かし、私自身を成長させていきます。

ドミニコ学院は私の家族のような存在です。皆さんは自分の夢を持ち、実現に向けてそれぞれの道を歩んでいくと思います。皆さんのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



各コースの1年を振り返って

夢を目指す生徒たちと 特進コースの躍進

特別進学コースリーダー

大出 恭史



特進コースの男女共学1期生たちは、私たちの期待を超える速度で成長し、すでに二年生としての新たなステージへの準備を整えています。今春には二期生のスタートも控えており、コースはさらに拡大を続けています。特に三年生は、大学入試が迫っており、勉強にさらなる熱意を注いでいます。冬休みには、有志による合宿も実施され、志望校合格に向けた意気込みが感じられます。先日は大学入試共通テストを明日に控えた三年生たちを激励する「出陣式」が行われました。(写真)注意事項の確認等を行った後、先生方から心ももった熱い応援メッセージをもらった生徒たちは、これまでの自分たちの努力してきたことに自信を持ち、明日からの試験に全力を尽くすことを誓っていました。私は、このコースのさらなる発展に貢献していきたいと考えています。特別進学コースの生徒たち一人ひとりが、自分の目標に向かってしっかりと進んでいけるよう、引き続き全面的な支援を行っていききたいと思います。

第2回

「高大連携授業」について

総合進学コースリーダー

伊藤 崇



総合進学コースでは、一・二年生を対象に、二月九日(金)六・七校時に第2回目の「高大連携授業」を行いました。この授業は、大学の先生から実際の研究内容や進路について学ぶ模擬授業や体験活動を通して、上級学校に進学するための学習意欲を高めるためのコース行事です。今回は、講師として東北学院大学情報学部データサイエンス学科教授である鈴木努先生に御来校いただき、「社会ネットワークの科学」というテーマで、授業を行いました。授業では、人と人とのつながりを人間関係の網の目ととらえる「社会ネットワーク」に注目することで、人間がどのような意識を持って行動するのかについて把握できることを学びました。そしてこのことから、人間の意識や行動とは決して個人の性格や特徴だけで把握できるものではないことも理解しました。さらにこの「社会ネットワーク」に注目した授業内容は、男女の性別役割分業や夫婦のネットワークのタイプ、SNSから理解できることなど、非常に多岐に及んでいました。生徒たちも熱心に授業に参加し、大学での専門分野の一端を知る、大変貴重な学びの機会となりました。

「おわりとはじまり」

幼児保育進学コース

未来探究進学コースリーダー

石川 裕之



今年度の三年生が幼児保育進学コースの最後の学年でした。これまで数多くの卒業生を送り出した幼児保育進学コースですが、今年度の三年生は八名でした。数は少ないですが、個性的で進学に向けた最大限の努力をしてくれました。大学・短大・専門学校卒業後に保育士・幼稚園教諭として活躍する日を楽しみにしております。未来探究進学コースは来年度、三年生がそろい、男女共学スタートの一年になります。まだ始まったばかりの未来探究進学コースですが、様々な改革が進んでおり、初の卒業生全員が希望する進路を達成できるようにコースとしてもサポートしていきたいと思えます。幼児保育進学コースの流れを受け継ぐコースでもありますので、先輩たちに続くような人材育成にも注力していきたいと思えます。

社会に出てから

必要な力

キャリアデザインコースリーダー

及川 俊浩



今年度で幕を閉じるキャリアデザインコース。その特徴的な授業としてキャリアデザインと社会人講座・ドミニコの森がありまます。この二つの授業は隔週で実施されていますが、それぞれの実施最終授業は二つの授業を合わせた状態で十二月に行われました。京都ノートルダム女子大学の濱中倫秀先生を招いて、京都の嵐山の、①竹林と渡月橋に集中している観光客の分散化、②ゴミ問題、③住民と観光客の共存、をテーマとしてグループで検討して一つのテーマを選びプランを考えていく、というものでした。今回は一年生の未来探究進学コースと合同で行いました。しかも、一・三年生合同グループでの話し合い。今までにない経験であったと思われまます。二週連続二時間ずつの授業で、最終的には嵐山商店街会長へのプレゼンまで行いました。もう少し時間があれば、もっと良いプランができたのではないかと、とも思いましたが、みんなの協力の上で何とかやり遂げることが出来ました。さてこの授業の大きなテーマはタイトルでもある社会に出てから必要な力をみにつけるには、というものでした。その力とはどのようなものでしょうか?その答えは写真にありますので見つけてみてください。

令和六年三月卒業生(六十二回生)の進路状況
(令和6年2月19日現在)

【大学合格者】(24名)

- 東北学院大学 (8) ・ 仙台白百合女子大学 (1) ・ 宮城学院女子大学 (4) ・ 尚綱学院大学 (4) ・ 東北文化学園大学 (3) ・ 東北福祉大学 (4)

【短期大学合格者】(3名)

- 聖和学園短期大学 (3)

【専修学校・各種学校合格者】(17名)

- 仙台市医師会看護専門学校 (2) ・ 相馬看護専門学校 ・ 国際マルチビジネス専門学校 ・ 仙台こども専門学校 (2) ・ 仙台スクールオブミュージック&ダンス専門学校 ・ 仙台接骨医療専門学校 ・ 仙台ウエディング&ブライダル専門学校 ・ 仙台医療秘書福祉専門学校 (2) ・ 仙台総合ペット専門学校 (2) ・ 仙台幼児保育専門学校 ・ 仙台YMCA国際ホテル専門学校 ・ 文化服装学院 ・ 大阪ハイテクノロジー専門学校

【就職内定者】(1名)

- 株式会社シップス

人の輪

小学校校長 土井 智子



新型コロナウイルス感染症による全国的な休校から四年。少しずつ、本当に少しずつ学校の生活は、元の状態に戻りつつあります。学校行事では保護者の人数制限を外し、参加や参観が自由になる、こんな当然ともいえることを実現するまでに、長い時間が必要でした。昨年九月初めに開催されたドミニコ

出合いに導かれて

聖トミニコ学院幼稚園 園長 京 けい子



私には忘れられない強烈な出合いがあります。その人は友が国を守るために特攻隊で命を捧げたことを心に止め、誰よりも平和を願っていました。そして自分の人生をおろそかに出来ないとの思いで、ボランティア活動を通して、若い私たちに関わり、行動をもって生き方を示してくれました。「人生とは、観客となつて舞台上に拍手を送ることではな

春

北仙台幼稚園長 土井 浩喜



春の訪れは、卒園の時、進級の時が来たことを私たちに知らせます。今、四月初のにぎやかな登園風景が遠い昔だったように思えるほど、落ち着いた朝を迎えるようになりまし。各自が進めるお仕事に集中して取り組んでいる姿が、一年の成長を表しています。この時期は、次のステップに進むための大切な

祭りは、飲食を伴わない午前中だけの行事でしたが、保護者を中心となって開催されたバザーは好評を博し、にぎやかなお祭りとなりました。久しぶりに参加された卒業生の保護者の方々（後援会OB会としてバザー出店）と話す機会にも恵まれ、楽しい時間を過ごすことができました。また、訪れた卒業生の姿を見て喜ぶ在校生の姿は印象的でした。子供の教育は、たくさんの方々の支援があつて成り立ちます。温かいまなざしが注がれることで、子供たちはたくさんのことに挑戦でき、成長につなげることが出来ます。いろいろな人と

い。自ら、自分の人生のドラマを演ずることなのだ。「青年に、無限の可能性があるのではない。可能性に向かつて無限に挑戦する勇氣と決断を有するもの、それが青年なのだ」「出る杭は打たれると言われているが出てみなければ分からない」等々、活動中に発せられたそれらの言葉が、五十年以上経つても私自身を支えてくれていたことを様々な場面で感じます。

出合いは、本にもありません。私の誕生日プレゼントは決まって本。小学五年生の頃「少女パレアナ」という本を父が買ってきてくれました。両親を亡くしたパレアナは気難しいおばさんに引き取られます。パレアナは不幸を

準備期間なのかもしれません。自分のことをすることさえままならず、初めての集団生活が不安でならなかった年少さんが、年中さんや年長さんの姿を追って整理整頓に努めるようになっていきます。園での日課を率先してするようになった年中さんは、リーダーとしての自覚が芽生えてきているのがわかります。そして、四月には小学生となる年長さんは、あどけなかつた表情から凛としたまなざしを感じるものへと変化しています。

一人ひとりが集団生活の中で成長し、互いに助け合うことができるようになっていくことが、日々の生活の中

触れ合う機会が、子供たちの考え方に幅を持たせ、画一的な考えから抜け出すことにつながります。「人は、人によって支えられ、人の間人間として磨かれていく」これはドラマ「金八先生の中にあつた言葉ですが、人として育つために、関わり合いを多く持つことが大切です。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行で、社会全体が閉鎖的な雰囲気になりそうな時であっても、工夫を凝らし、子供たちの可能性を広げるために、関わり合いを求めて働きかけていきたいと思っています。

嘆くのではなくその中に喜びを見つけていることを牧師のお父さんから教えられました。例えば「クリスマス慰問袋に入っていたのは松葉杖。歩ける足を感謝し喜ぶ」というふうには、パレアナは、その喜びを見つめる天才？になり、周りの人間のかたくなな心を溶かしていくのです。この本が私を神に出会わせてくれたきっかけだと思

います。これから長い道のりを歩む、全ての子どもたちの人生が、多くの出合いに恵まれ、光り輝く道でありますように、と祈ります。

で感じられるのがこの時期、春です。それぞれの役割が、子供自身を育てているのがわかります。子供を取り巻くすべての大人は、この時期を共に喜び、支えていくことが求められます。できていくことに目を向け、任せていくことが大切です。失敗を恐れず、信頼して任せることは、時に大人に対して忍耐が求められますが、この大切な時を逃してはいけません。子供の成長を促すために、少し離れて、自分の力で挑戦していくことを見守っていき

「修学旅行を終えて」

第二学年主任 前田 朱実

二月四日から三泊四日で奈良、大阪、京都に修学旅行に行つてまいりました。コロナ禍で中学生のときに修学旅行が中止になったり、近郊になったりした学年なので、今回は良い思い出を作ってもらいたいという思いでいっぱいでした。見学地や時間設定等、様々な面で旅行会社から最善の案を提示してもらいました。終わつてみれば改善の余地はあつたものの、生徒にとつて実り多い思い出となつたのでは、と思います。

もちろん、今回の修学旅行が良い思い出となつたのは保護者の皆様のご支援、ご協力があつたからこそで、感謝の気持ちでいっぱいです。空港で朝晩の送迎もありがとうございました。今回は二日目に少々雨が降りましたが、気温もそれなりに高く、コロナやインフルエンザが流行することもなく、病院にかかる生徒もいませんでした。保護者の皆様のお気持ち、天候、感染症等なかつたこと、生徒の努力により無事に終了できたことを嬉しく思います。

